

A photograph of a branch with several white flowers and buds against a brick wall background. The flowers are in various stages of bloom, with some fully open and others as buds. The brick wall is a reddish-brown color with a visible pattern of bricks and mortar lines.

21世紀型 文理融合 リベラルアーツ

21 世紀のハイカラさんは、
あなたです。

お茶の水女子大学 2010 年版

教養教育からリベラルアーツへ

お茶の水女子大学は、
すべての女性の真摯な夢の実現される場であること、
教養知と専門知、学術知と実践知を兼ね備えた女性が、
21世紀に羽ばたくことを大学の目標として掲げています。

社会人としての基礎力とともに、知的な自由さをもった女性。
それを創るのが、リベラルアーツです。

お茶の水女子大学から世界に発信する 21世紀型リベラルアーツ

21世紀は、知識や技術の専門化・多様化と社会のグローバル化が平行して進んでいます。そこでは、私たちが学ぶ知識は、専門的でないと役にたちませんし、同時に国や文化が違う相手にも伝える必要があります。

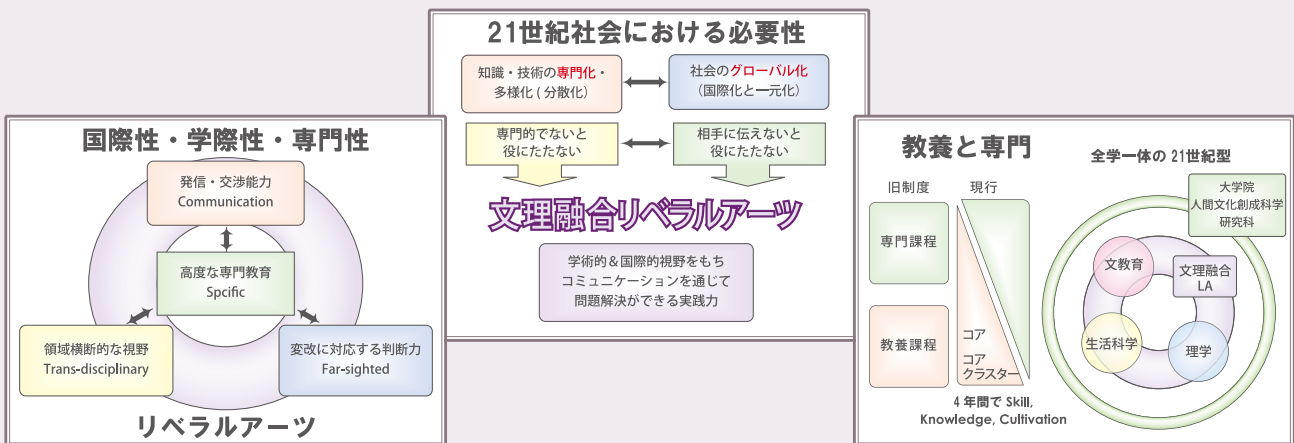
これまで大学では、専門教育の前段階として、教養教育を行ってきました。現代は、高度な専門教育を支えこれを使いこなすために、発信・交渉能力、領域横断的な視野、変化に対応する判断力を養う必要があります。

知識そのものの基礎であり、生涯をとおして、

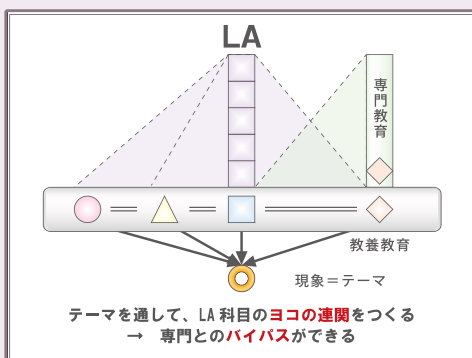
自在に(リベラル)

つかえる技(アーツ)

を学ぶことが、「21世紀型リベラルアーツ」の目的です。

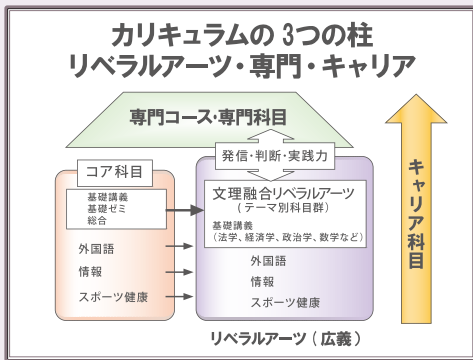


文理を融合した学びを



わたしたちを取り巻く世界は、自然であれ技術であれ社会であれ、さまざまな要素が複雑に絡みあっています。大学では、専門的な学術というナイフで、複雑な現象を解析することを学びます。しかし、全体を展望するには領域を横断した知識が必要になっています。文系の人間にも科学技術の理解が、理系の人にも人文社会の理解が不可欠になっています。文理融合リベラルアーツを学ぶことによって、教養教育(リベラルアーツ)の科目と専門の科目との間に連関が生まれ、領域を横断した視野が獲得されます。

事象を科学の眼で見つめ直すこと、歴史(成り立ち)から理解すること、



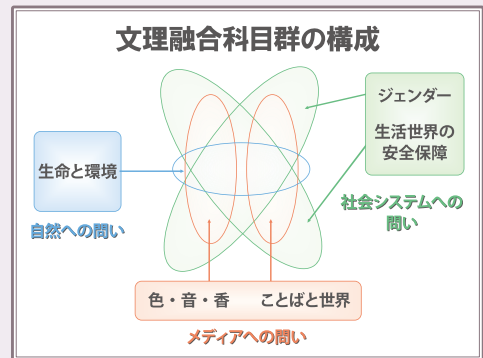
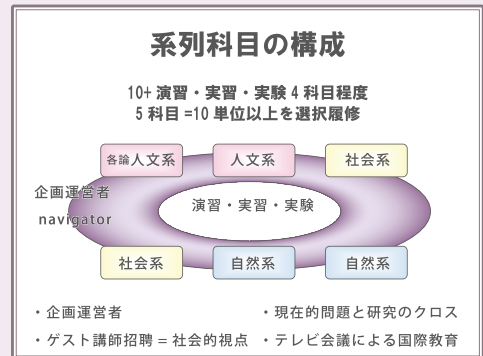
表現の意味を考えること。それらは相互に結びついて、わたしたちのものへの考え方に新しい光を投げかけてくれます。その知的発見の積み重ねは、女性がライフサイクルのさまざまな場面で遭遇する転機を突破する力を与えてくれます。ひとりひとりが生涯にわたって生き生きと生きていくための「お茶大リベラルアーツ」の誕生です。

文理融合リベラルアーツの科目群は、従来のコア科目（基礎講義・基礎ゼミ）、全学科目のコア・クラスターを発展させたものです。20年度以降の新入生だけではなく、在生も履修できます。

現代世界の鍵となる5つのテーマ

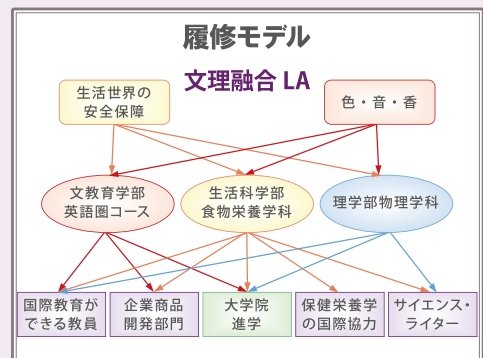
新プログラム「文理融合リベラルアーツ」では、文系理系にまたがる5つのテーマ（生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダー）にそって、講義、討論、発表、演習・実験・実習を組み合わせた系列科目群をつくり、自然・人文・社会の3つの角度から多面的に学びます。演習・実験・実習を通して、読み・聞き・書き・語り・作るという5つの能力を養成します。演習では、テーマに関連するテキスト（書物や論文）を読み、発表・討論し、レポートを書くことで、読解力や表現力を高めます。「生命と環境」や「色・音・香」では、海の生物を採集し観察する実験やおいしさを作り出す実習で、自然の仕組みや生活技術を体感します。「生活世界の安全保障」では、NPOでのインターンシップなどを通して、実践力を養成します。

いずれも21世紀の世界の鍵となるテーマです。どの系列でも文理双方から問題を問いかけ、ここを「切り口」として知識と経験を広げ、主題を根源から理解することがゴールです。



専門力を生かした多様な進路を切り拓く

このような教育プログラムは、ひとつのキャンパスに人文学、社会科学、自然科学の3つの系列の教員が集うお茶の水女子大学だからこそ、可能なのです。大学1～2年生の段階で「文理融合リベラルアーツ」によって学際的で実践的な力をつけることによって、専門力をいかした多様な進路が切り拓かれます。



文系理系にまたがる5つのテーマ

- ・生命と環境
- ・色・音・香
- ・生活世界の安全保障
- ・ことばと世界
- ・ジェンダー

にそって、講義、討論、発表、演習・実験・実習を組み合わせた系列科目群をつくり、自然・人文・社会の3つの角度から多面的に学びます。



生命と環境

生命を守るための環境への配慮
(認識、働きかけ etc.) を行うために必要となる、
「複眼」的視野の導入を図ります。

前世紀、空前の環境ブームが起こり、生存の場としての環境の重要性が認識され、人々は環境との良好な関わりを保つことこそが、生命活動の確保に欠かせないことを知りました。生命と環境との関わりを深く理解し、その上で新たな共生の方法を創成することが、21世紀を生きる我々に課せられた重大な使命であると考えられます。

「生命と環境」の科目群では、実体験を通して多くの知識に触れることを重視しています。学問の緒に着いた学生にとって重要なことは、まずは経験と、体験です。これらを通して、「知識の引き出し」を増やし、知的好奇心を育むことだと考えます。これをもとに、生命を守るための環境への配慮を行うために必要となる、「複眼」的視野の導入を図ります。



Illustration by Fumio Nakaya

生命とは何か

現代科学における生命像、生命倫理、生物としてのヒトとはどのようなものか、という問題を取り上げ、生命を多角的に捉えることを目指します。

科目名		担当教員		時間割		
生命と環境 1	生命の科学	理学部：生物学科	山本 直樹 室伏 きみ子	後期	金	3/4 限
生命と環境 2	生命倫理	文教育学部：人文科学科	大久保 紀子 吉村 均	H23 年度開講		
生命と環境 3	多様性生物学	理学部：生物学科	服田 昌之	後期	月	1/2 限
生命と環境 4	生物人類学	生活科学部：人間・環境科学科	松浦 秀治 近藤 恵	後期	金	3/4 限

生命を取り巻く環境：自然環境

ヒトの営みとは無関係に存在する環境(自然環境)を取り上げ、天体としての地球とそこで繰り広げられる多様な環境の出現を扱います。

科目名		担当教員		時間割		
生命と環境 5	生命と環境の化学	理学部：化学科	今野 美智子	H23 年度開講		
生命と環境 6	惑星地球の科学	理学部：物理学科	佐藤 文衛	後期	水	3/4 限
生命と環境 7	大気と水	文教育学部：人文科学科 地理学	長谷川直子	H23 年度開講		

生命を取り巻く環境：文化環境

ヒトとの関わりのもとで育まれる環境(文化環境)を取り上げ、ヒトの文化の多様性とそれを育む環境の多様性、地域と風土、さらにはそれらとの共生の問題を扱います。

科目名		担当教員		時間割		
生命と環境 8	文化と環境	文教育学部：人間社会科学科 教育科学	棚橋 訓	前期	金	3/4 限
生命と環境 9	地域と風土	文教育学部：グローバル文化学環	熊谷 圭知	後期	月	3/4 限
生命と環境 10	開発と共生	文教育学部：グローバル文化学環	荒木 美奈子	後期	水	3/4 限

生命・環境を「体験する」

湾岸生物教育研究センター(千葉県館山市)での合宿実習を通し、生命誕生のリアルタイム体験、海浜生物環境のフィールドワーク等を経験します。あらかじめ大塚キャンパスでの予備実習(顕微鏡観察の基礎等)を行うことで、初心者でも実習に参加できます。また、自然環境の計測法を学ぶことで、環境の成り立ちを理解する「気象観測(演習)」も行われています。この他に生命科学や環境問題、環境保護活動などを扱うディベート方式の演習も用意されています。

科目名		担当教員		時間割		
生命と環境 21	基礎生命科学(実習)	理学部：生物学科	最上 善広、清本 正人 仲矢 史雄、和田 祐子	前期・後期	火・木	5-8 限
生命と環境 22	海洋環境学ダイビング(実習)	理学部：生物学科	清本 正人、服田 昌之 千葉 和義	夏季集中		
生命と環境 23	環境保護活動リサーチ(演習)	理学部：化学科	森 義仁	前期	月	3/4 限
生命と環境 24	生命科学与環境問題(演習)	理学部：生物学科	古田 悦子 宮本 泰則	前期	水	3/4 限
生命と環境 25	気象観測(演習)	文教育学部：人文科学科 地理学	長谷川直子	夏季集中		

色・音・香

色・音・香という身近な感覚、感性を共通の切り口とし、自然の原理と我々の文化、社会について学びます。

色・音・香という身近な感覚、感性を共通の切り口とし、人間(生物)は自然界や社会的、文化的情報をいかに認識、受容し、利用していくのか、また社会的、文化的情報として蓄積していくかを探求し、広く人間と自然、そして社会との相互作用についての理解の視点を養います。

色・音・香の本体は物理学や化学を使って自然科学的に説明できるものです。また、人や生物がそれらを受容し、認識する最初の過程は生物学、生理学的なものです。

しかし、その作用や影響は自然科学的であるだけでなく、社会、文化的な分野に広く及びます。色・音・香は、服飾、住居、食物といった私たちの生活様式や文化に大きく関わっていることはいうまでもなく、音楽、美術などの芸術、さらには宗教、心理、発達といった人間の内面や行動様式までにも大きな影響を与えています。

ここでは色・音・香を通じ、自然現象とその法則を学ぶとともに、人間(生物)は自然界の情報や社会的、文化的な情報をいかに認識、受容、利用していくのか、また人間と自然そして社会との相互作用についての理解を学びます。



科目群の構成としては、講義科目 10 科目、演習科目 4 科目よりなります。

講義科目は、自然・物質としての色・音・香を取り扱う(自然科学系)4科目、人間・感性・文化といった視点(人文科学系)からの4科目、物質・環境と人間生活といった視点(文理融合)からの2科目からなり、演習科目は、「感覚の科学」、「おいしさのサイエンス」(実習を含む)、「音を読む、創る」、「感覚の歴史を読む」の4科目からなります。感性とモチベーションを高め、楽しく学んでいきましょう。

	科目名	担当教員	時間割
自然・物質	色・音・香 1 分子から見た色と香り	理学部：化学科 益田 祐一 矢島 知子	前期 金 3/4 限
	色・音・香 2 生命と色・音・香	理学部：生物学科 最上 善広 作田 正明 近藤 るみ	H23 年度開講
	色・音・香 3 色・音・香の物理学	理学部：物理学科 菅本 晶夫	後期 月 3/4 限
	色・音・香 4 コンピュータが創る色と音	理学部：情報科学科 伊藤 貴之	H23 年度開講
感性・人間	色・音・香 5 情緒と発達の心理学	生活科学部：人間生活学科 発達臨床心理学 高濱 裕子	H23 年度開講
	色・音・香 6 色・音・香と生活文化	生活科学部：人間生活学科 生活文化学 吉村 佳子	H23 年度開講
	色・音・香 7 舞踊における色・音・香	文教育学部：芸術・表現行動学科 舞踊教育学 中村 美奈子	後期 月 3/4 限
	色・音・香 8 宗教と色・音・香	文教育学部：人文科学科 哲学 頼住 光子	後期 水 1/2 限
物質・環境と人間生活	色・音・香 9 おいしさで色・音・香	生活科学部：食物栄養学科 文教育学部：人文科学科 比較歴史学 村田 容常 古瀬 奈津子 安成 英樹	後期 金 3/4 限
	色・音・香 10 知覚認知と環境デザイン	生活科学部：人間・環境科学科 宗方 淳	H23 年度開講
演習・実習	色・音・香 21 感覚の科学(演習)	文教育学部：人間社会科学科 心理学 石口 彰	前期 水 3/4 限
	色・音・香 22 おいしさのサイエンス(演習)	生活科学部：食物栄養学科 香西 みどり	前期 月 3/4 限
	色・音・香 23 音を読む、創る(演習)	文教育学部：芸術・表現行動学科 音楽表現 近藤 譲 永原 恵三 小坂 圭太	前期 水 3/4 限
	色・音・香 24 感覚の歴史を読む(演習)	文教育学部：人文科学科 比較歴史学 新井 由紀夫	前期 月 3/4 限



生活世界の安全保障

私たちの生活を脅かす危険。そして、危険を克服し、安全を回復・維持する努力。人間社会の営みを危険と安全の相克としてとらえ、私たちの生き方や命のあり方を見つめ直します。

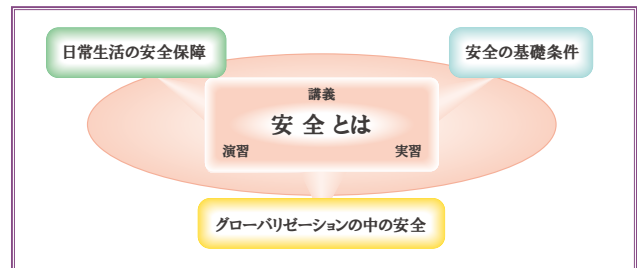
人間の生活世界には、日常の衣食住にまつわる事件・事故から、大災害や戦争のような脅威まで、多様な危険がひそんでいます。

私たちは、これらの多様な危険に対処し、安全に生活を送るために、さまざまな社会的・技術的・文化的な装置を作り出してきました。

しかし、そうした装置が、かえって危険を増幅したり、抑圧や不平等を招いてしまうこともあります。

また時代が進むにつれ、テクノロジーの発展によって克服された危険がある一方で、グローバル化の中で新たな脅威が生まれたりもしています。

この系列の科目では、安全を守るために何が必要なのか、を考えるを通して、社会、技術、文化の相互関係をとらえ直し、同時に生命としての人間のあり方を考察します。



日常生活の安全保障

現代はリスク社会だと言われるように、日々の暮らしの中にも、多くの危険がひそんでいます。労働、家族、情報社会などの観点から、生活の安全を維持・回復するしくみについて考察します。また、そうした社会的な取り組みが歴史的にどのように行われてきたのかについて、振り返って考えます。

科目名		担当教員		時間割		
生活世界の安全保障 1	生活の中の危険と安全	生活科学部：人間生活学科	未定	H23 年度開講		
生活世界の安全保障 2	情報社会の安全保障	文教育学部：人文科学科	中川 晋一	後期	金	7/8 限
生活世界の安全保障 3	リスクの社会史	文教育学部：人文科学科 比較歴史学	新井 由紀夫・他	後期	月	3/4 限

グローバル化の中の安全

グローバル化する現代世界では、かつてとは異なる新たな危険が生じることがあり、その対応にもグローバルな視点が求められています。暴力、戦争、貧困と開発、公害、化学物質、資源など、国境を超えた諸問題を、安全保障の文脈で学びます。

科目名		担当教員		時間割		
生活世界の安全保障 4	平和と暴力	文教育学部：グローバル文化学環	小林 誠	後期	金	3/4 限
生活世界の安全保障 5	人間の安全保障	文教育学部：グローバル文化学環	荒木 美奈子	後期	水	3/4 限
生活世界の安全保障 6	社会技術革新学概論	ライフワールド・ウオッチセンター	増田 優	H23 年度開講		

安全の基礎条件

人間の生活を守る基礎的な条件は、そもそも何なのでしょう。人間が存在する物質世界の性質、生命体としての人間、健康維持、生活環境といった問題点から、危険と安全を考察します。また、社会の中で脅威を受けやすい存在である弱者に注目し、人間生活の安全を再考します。

科目名		担当教員		時間割		
生活世界の安全保障 7	現代物質文明の履歴	理学部：化学科	森 義仁	前期	月	1/2 限
生活世界の安全保障 8	ゲノム時代の健康管理	遺伝カウンセリングコース	川目 裕	後期	月	1/2 限
生活世界の安全保障 9	水の安全保障	生活科学部：人間・環境科学科	大瀧 雅寛	H23 年度開講		
生活世界の安全保障 10	社会的弱者の存在論	文教育学部：人間社会科学科	未定	H23 年度開講		

演習・実習

科目名		担当教員		時間割		
生活世界の安全保障 21	歴史のなかの危機とその克服 (演習)	文教育学部：人文科学科 比較歴史学	安成 英樹	前期	水	3/4 限
生活世界の安全保障 22	教育における危機 (演習)	文教育学部：人間社会科学科 教育科学	池田 全之	前期	水	3/4 限
生活世界の安全保障 23	NPOインターンシップ (実習)	キャリア支援センター	亀山 俊朗	通年不定期		
生活世界の安全保障 24	リスク管理 (演習)	ライフワールド・ウオッチセンター	増田 優	前期・後期	水	11/12 限

ことばと世界

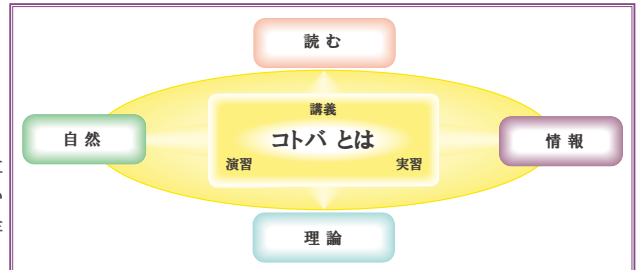
人間の取り巻く世界(人間社会や自然界)を、人間は、どのようにして記述し、どのように伝えてきたのでしょうか。自然言語、数学言語、さらには、コンピュータ言語などの仕組みと働き、および、記述された世界について、多面的に考えていきます。

“ことば”は世界とどのような関りを持つのでしょうか。“ことば”は何を表し、我々はそれによって何を表現しているのでしょうか。この系列では、次のようなカテゴリーから考えていきたいと思います。



ことばの理論

言語そのものに関する議論です。言語の理論は高校で習う「文法」だけではありません。より抽象化された論理学、言語の使われ方を通して社会を考える言語社会学、乳幼児が言語を獲得していく過程を扱う発達言語学、自分の言語ではない第二言語を習得していく過程を分析する言語習得論など、いろいろなジャンルが存在します。



科目名	担当教員			時間割		
ことばと世界 1	日本語論	文教育学部：言語文化学科 日本語・日本文学	高崎 みどり	後期	月	3/4 限
ことばと世界 2	言語の習得と発達	文教育学部：人間社会科学科 心理学	内田 伸子	後期	水	3/4 限
ことばと世界 3	論理学	文教育学部：人文科学科 哲学	三浦 謙	後期	水	3/4 限
ことばと世界 11	文法と意味	理学部：情報科学科	戸次 大介	後期	金	3/4 限
ことばと世界 12	知能環境論	教育開発センター	半田 智久	後期	水	3/4 限

ことばを読む

文学作品を中心とした、言語による表現を解釈します。しかし必ずしも対象は「文学」に限定される必要はありません。新聞記事であれマンガであれ、言葉で表現されたものは、時に著者本人も意図しないような何かを表してしまっているものだからです。高校「国語」とは違った流儀の「読み方」が展開されていきます。

科目名	担当教員			時間割		
ことばと世界 4	文化の記号学	文教育学部：言語文化学科 日本語・日本文学	大塚 常樹	H23 年度開講		
ことばと世界 5	日本文学	文教育学部：言語文化学科 日本語・日本文学	大塚 常樹	後期	水	3/4 限
ことばと世界 6	海外の文学	文教育学部：言語文化学科 仏語圏言語文化	有田 英也	後期	水	1/2 限

自然を記述することば

科学とは、実は“ことば”で自然を記述する行為のことです。そこでは我々の日常会話とはもちろん違ったレベルの“ことば”が必要となります。数学、物理学、化学などがいったいどのような語り方を考案することによって自然に迫っていくのか、具体例を通して考えていきます。文系の人でも、「自分は理系ではないから…」と尻込みせずに、日常的感覚が大きく更新される体験を味わってください。

科目名	担当教員			時間割		
ことばと世界 7	数理のことば	理学部：数学科	真島 秀行	後期	水	3/4 限
ことばと世界 8	自然のことば	理学部：物理学科	曹 基哲	前期	金	3/4 限

情報としてのことば

情報とは現実世界をあらわす“ことば”のことです。ヒトは情報を介して世界を知る生物です。膨大な情報を処理しなくては、世界の実像を知ることができません。その意味で、情報学は諸科学の知の基礎をなしています。また、情報化時代における生活の基礎をなす「作法」としての情報能力を養うことも、このカテゴリーの目的の一つとなっています。

科目名	担当教員			時間割		
ことばと世界 9	コンピュータの言語	理学部：情報科学科	浅井 健一	後期	月	3/4 限
ことばと世界 10	グローバル化社会を生きる	文教育学部：言語文化学科 日本語教育	岡崎 眸	前期	水	1/2 限

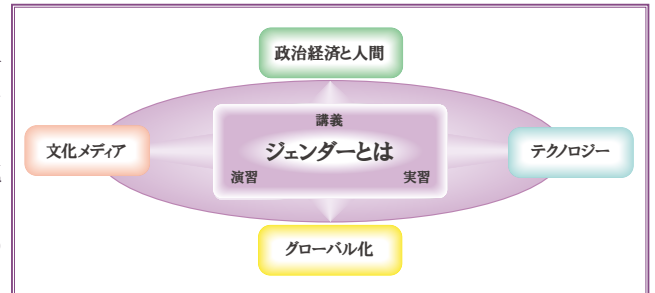
演習

科目名	担当教員			時間割		
ことばと世界 21	情報科学(演習)	理学部：情報科学科	富樫 雅文	前期	水	3/4 限
ことばと世界 22	数理のことば(演習)	理学部：数学科	塚田 和美	前期	水	3/4 限
ことばと世界 23	自然のことば(演習)	理学部：物理学科	菅本 晶夫	前期	月	3/4 限
ことばと世界 24	ことばを探る(演習)	文教育学部：言語文化学科 仏語圏言語文化	中村 俊直	前期	月	3/4 限
ことばと世界 25	ことばを読む(演習)	文教育学部：言語文化学科 日本語・日本文学	浅田 徹	前期	水	3/4 限
ことばと世界 26	計算機のことば(演習)	理学部：情報科学科	粕川 正充	前期	月	3/4 限
ことばと世界 27	手話学入門(演習)	生活科学部：人間生活学科 生活社会科学	下城 文江	前期	水	3/4 限

ジェンダー

性別に関係なく充実した幸福な生活を営める社会にするために、何を考え、どう研究すればよいかを学ぶ、ジェンダー視点の導入です。それによって在学中の専門分野の研究に新しい視野を吹き込み、卒業後の進路においては新しい知の担い手として、イキイキと活躍する国際人になりましょう。

「人は女に生まれず、女になる」とシモーヌ・ド・ボーヴォワールが語ってから半世紀以上たっていますが、まだまだ世界の仕組みは「女」になったり「男」になったりするように入人を誘導しています。そう、ジェンダーは社会や文化によって形づくられた性別です。そして少子高齢化社会に突入している日本では、また人やモノやカネが国境を越えて移動しているグローバル化の時代には、ジェンダーは以前よりもっと巧妙にわたしたちの人生や生活のなかに入り込んでいます。他方で、「愛する」かたち（セクシュアリティ）の多様性や、「産む」ことにまつわるテクノロジーの進展は、自由や解放とともに、反発や問題の複雑さももたらしています。今を生きるジェンダー学を学びましょう。



政治経済と人間

市場経済の進展がジェンダーにまつわってケアや福祉や消費や家庭経済をどのように変容させているのか、また家庭や社会のなかの暴力がジェンダーの視点でどう法制化されているかを考えます。

科目名		担当教員		時間割		
ジェンダー1	政策とジェンダー	ジェンダー研究センター	未定	H23 年度開講		
ジェンダー2	ケア・エコノミーとジェンダー	文教育学部：グローバル文化学環・ジェンダー研究センター	足立 真理子	後期	水	3/4 限
ジェンダー8	政治とジェンダー	生活科学部：ジェンダー研究センター	申 琪榮	後期	水	3/4 限

文化メディア

映画や美術や文学やマンガやミュージックなどのポップカルチャーが、ジェンダーやセクシュアリティをどう描いているのかを考えます。『タイタニック』や『冬ソナ』で泣いているあなたは誰？

科目名		担当教員		時間割		
ジェンダー3	映画とセクシュアリティ	文教育学部：言語文化学科 英語圏言語文化	竹村 和子	後期	金	3/4 限
ジェンダー4	アートとジェンダー	文教育学部：人文科学科 美術史	天野 知香	H23 年度開講		

グローバル化

グローバル化はどのように国境を超えてジェンダーの仕組みを変えるのか、またローカルな文化（たとえばイスラムのヴェール）はどのように国境を越えて政治的意味をもつことになるかを考えます。

科目名		担当教員		時間割		
ジェンダー5	宗教文化とジェンダー	文教育学部：グローバル文化学環	三浦 徹	後期	水	1/2 限
ジェンダー6	グローバル化 / ローカル性とジェンダー	文教育学部：人間社会科学科 教育科学	棚橋 訓	H23 年度開講		

テクノロジー

生殖科学はわたしたちに何をもちたらしめるのでしょうか、また従来の科学の枠組にはどんな前提があったのでしょうか、そして一見、無関係に見えるインターネットとジェンダーの関係などを考えます。

科目名		担当教員		時間割		
ジェンダー7	テクノサイエンスとジェンダー	生活科学部：ジェンダー研究センター	館 かおる	H23 年度開講		
ジェンダー9	生殖テクノロジーとジェンダー	生活科学部：ジェンダー研究センター	柘植 あづみ	後期	月	3/4 限

演習

科目名		担当教員		時間割		
ジェンダー21	福祉・エコノミーとジェンダー（演習）	生活科学部：人間生活学科 生活社会科学	齋藤 暁子	前期	月	3/4 限
ジェンダー22	文化メディアとジェンダー（演習）	文教育学部：言語文化学科 英語圏言語文化	内田 正子	前期	水	3/4 限
ジェンダー23	開発・社会変動とジェンダー（演習）	文教育学部：グローバル文化学環	熊谷 圭知	前期	月	3/4 限
ジェンダー24	テクノロジーとジェンダー（演習）	生活科学部：ジェンダー研究センター	高橋 さきの	前期	水	3/4 限

授業紹介 (平成 22 年度開講予定科目、ウェブサイトに掲載中)

生命と環境 23 環境保護活動リサーチ (演習)

森 義仁

LA 科目をスタートして

環境保護リサーチ演習と言うのは、毎回外部の方をお呼びして、お話をしてもらってるんです。これは新規の授業で、テーマは「せめぎあいを見つける」なんです。環境保護活動というのには開発と保護のせめぎあいがある。ただ、それはすぐわからないので、今「せめぎあい」の中で活動している人、市民団体や国際 NGO、政府・財団系に企業。その人たちに来てもらって、話をしてもらって、学生みんなの反応を見ながら、みんなで授業を作っているところです。僕は、この授業では、グローバルなものではない、ローカルな価値観を取り上げてほしいと思ってる。そのほうが「せめぎあい」の現実をより実感して捉えることができると思うんです。



学生に学んでほしいこと、伝えたいこと

まず話を聞くということ、そして重要なのは、その体験談をどういうポイントで聞くかということです。「リサーチの仕方そのもの」を理解してもらおうと。自分のテーマの中で、何がせめぎあいのかを見つけていく。そして、相反する二つの考え方が、どのような基準で妥協点を持ったのか、ゲスト講師の話や過去の例を調べることで見つけていく。それがレポートの書き方のポイントでもある (笑)。

それと、たくさんのことを考える時の考え方。まず大雑把に分けて、その中にどういった構造があるのかを考える。この「大雑把に分ける」というのが、理系の学生は苦手なんです。こういうのは文系の学生のほうが得意。意図したわけではないんですけど、なぜかこの授業は化学系の学生が多いんです (笑)

学生へのメッセージ

環境問題のその妥協点は、科学技術と法律、コストの中で決まるんです。科学を目指す人たちの多くは科学技術に向かうけれど、法律とコストを考えた上での科学技術でないと、今の世の中には受け入れられない。科学の人たちも、それを知るべき時代が来たかと思ってるんです。科学技術はあまりにも大きくなりすぎて、社会の状況を考えて開発していかないと、好きな研究もできなくなってきた。

この授業で特に科学技術について話しているわけではないけれど、僕の中でこういった思いがあって、この授業になってるような気がしますね。環境は大切だということは知っていても、実際には自分の知っているものしか知らない。それは、色々なものを含めて考えていかなければいけない。文理融合の授業を通して、学生に考えてほしいことです。

取材報告/写真:教育企画チーム

色・音・香 7 舞踊における色・音・香

中村 美奈子

LA 科目をスタートして

当初の予想 (40 人くらい) を大幅に上回る人数 (80 人以上) が、ガイダンスに集まり、立ち見の状態でしたが、ガイダンスの後、「受講を希望する人」と、挙手させたとこ、それほど多くなかった。次の回も同じ教室で開講しました。しかし、「出席点を重視している」というシラバスのせいか、立ち見の学生が多数出てしまうので、現在の大学本館 306 教室のほうへ教室変更をしました。登録者数は、100 人以上でしたが、少しずつ減って、60 人程度で落ち着いています。毎回感想を書かせているのですが、自分なりによく考えた感想を書く学生もいれば、とりあえず見たものをそのまま書いているという感じのものも見られ、少し温度差があるように感じられます。



授業方針

授業には「生の実演」を取り入れています。1 回ずつほぼ完結した形で、私が現在関心のある舞踊に関連したテーマを扱うことにしました。つまり、「1 人オムニバス」です。そして、舞踊の「生の実演」をできるだけ多く取り入れるように工夫しました (計 3 回、衣装の着付けのみの回を含めると計 4 回行った)。

シラバスの「学生へのメッセージ」の中にも書いているのですが、生身の人間が踊る姿を見てほしいというのが私の願いです。授業の中ではやむをえずビデオや DVD のような映像を用いていますが、生でみないと伝わらないことがたくさんあり、最近、それらができないことにとてもストレスを感じているところです。



アフリカの衣装の着付けを説明中

ムソロ (ヘッドスカーフ) を巻いています



他にもさまざまな衣装があります



←鮮やかな黄色からこんな深みのある色↓まで、多種多彩



報告:中村美奈子准教授/写真:教育企画チーム

生活世界の安全保障 3 リスクの社会史

新井 由紀夫・三浦 徹・古瀬 奈津子
安田次郎・神田 由築・安成 英樹



LA としてのリスクの社会史

この講義は、イギリス中世史・フランス近世史・日本古代史・日本中世史・日本近世史・イスラム史、計6名の教員が担当する連続講義ですが、単なるオムニバス講義にならないように努めています。テーマは、ヨーロッパ中世を襲った黒死病への対処と影響・フランス革命の進展とうわさのコミュニケーション・遣唐使とそのリスク・日本中世の合戦としたたかに生きる民衆・日本近世の地域社会と治安の安全装置～「粋方(すいほう)」と呼ばれる侠客親分・マムルーク朝末期の都市社会におけるズルム(不正)と相対的正義、など一見さまざまです。しかしながら、歴史のなかで人々はリスクにどう対応してきたのかという問題を考えることで、現代に生きる私たちを見つめ直したいという点で、6人による講義は共通した問題意識を持っています。この講義の前身は、2年前から特別教育研究経費事業「コミュニケーションシステムの開発によるリスク社会への対応」の教育プロジェクトとして、試行的に行ってきた講義や共同研究でした。講義をする教員同士で共通テーマに関するお互いの理解を深めてきたことが、リスクの社会史として連続講義を開講する上で必要不可欠の作業であったと思います。

とはいえ、一見バラバラに見える講義テーマを通して、講義を聴いているみなさんが自分なりの理解や考えを持ってもらおうのは、そのままでは困難だと思います。そこで、講義の最終日に、6名の教員が参加してのミニシンポジウムを行いました。そこでは、「リスクにどう対応し、そこから何が引き出せるか」という点に絞り込んで、教員側がまず短くコメントしました。そこから出た論点を学生さんに投げかけて議論に参加してもらい、あるいは学生さんからの問いかけに教員全員が答えるなど、双方向のやりとりを心がけました。このミニシンポジウムを通じて、学生さんに「リスクの歴史を学ぶ意義は何なのか」を、自分自身への問いとして考えてもらい、自分なりの答えを見つけてもらいたかったからです。

学生の意見

最後に、シンポジウム終了後にとったアンケートから学生の意見をいくつか紹介したいと思います。「みんなの意見を聞いてより深い理解に近づけた。リスクは小さくしなければならぬものでは必ずしもない。今までと違った視点を得られた」「それぞれの授業ではいまいち実態をつかめなかった「リスク」という存在が今日のシンポジウムでおぼろげだが姿を現したような気がした」「授業を通して感じたのは、リスクから身を守るのは自分だということ、柔軟に判断基準を変えながら環境に適應することが大切ということ」「他の科目との関係について話をしてくださったことで、自分なりの「視点」を決めること(持つこと)が重要だと気づいた」「リレー形式の授業で最後にシンポジウムを設ける授業は初めてだった。各授業で得た知識・考えを横断的に考察する機会を持つことの意義を痛切に感じた」などでした。

報告：新井由紀夫教授／写真：教育企画チーム

ことばと世界 25 ことばを読む (演習)

浅田 徹

LA 科目をスタートして

昨年までは基礎ゼミだったんですが、雰囲気はあまり変わりませんね。言語文化の学生が多いからでしょうか。ただ、基礎ゼミのときはある程度授業内容を自由に設定できたんですが、LAに振替になって系列テーマに関連させるという部分において、教員の自由度が少なくなりました。

そうは言っても、LA科目にすることによって、科目のパラエティは格段に増えましたね、学生にとってはいいことだと思いますよ。

LAであるとかそうでないかわからず、私は教室の中で教員は異分子でなくてはならないと思っています。ここではそれを維持するのは楽ですね(笑) 教室には同世代の同性しかいませんから、私が、おじさん(違う世代の異性)から、君たちはこう見えるよ、ということ伝えるのも、一つの役目だと思ってるんです。



学生の皆さんへ

世の中に存在するものは、それが映像であっても、文房具であっても、必ず誰かが演出したものです。それは、自分以外の誰かが意図したものである、ということです。

それらを踏まえたうえで、与えられた作品(事物)に対して、自分の考えを対象化し、言語化していけるようになってほしいですね。

授業(潜入ルポ?)

ガイダンス時に提示されたテーマにそって、各学生がそれぞれ選んだテーマをレポート、報告し、質疑応答を行うのですが、私がこの日の授業で面白かったのは、その二つのテーマの組み合わせ。

ガイダンス時の資料をみると、A～Vまで22のテーマが列挙してあるのですが、発表順を見ると、テーマに振られた番号(アルファベット)順ではない!?ここに何か意図があるのだろうか、と勘繰りながら、学生の発表に耳を傾けました。(先生は意図があって、こういった順番にしているそうです)

先生の専門は日本文学(大雑把です)ですが、そのテーマの多様さには目が回るようです。「ことば」とは如何に奥の深いものか…。

演習科目は抽選なのですが、今回この授業では唯一の理系学生に、受講の理由を質問してみました。曰く「理系に偏った考えではなく、多様で広い視野を持ちたいと思ったんです」とのこと。

世の中には知らないこともたくさんあるけれど、それだけではなく、事象の意外なつながりを見つけて、それを自分の物差しにするためのきっかけを与えてくれる、そんな印象の授業でした。

取材報告／写真：教育企画チーム

ジェンダー 22 文化メディアとジェンダー (演習)

菅 聡子



LA 科目を担当して

1. ゲスト講師の講義:

ジェンダーという言葉を知り、大学に入って初めて聞いたという学生が多いこともあって、最初にジェンダーの問題提起について話をしました。しかし、初めてにもかかわらず、素晴らしい発表が多くて驚いています。

それから、5人のグループを作り、キャリアカフェ(附属図書館)でグループディスカッションを行い、それぞれテーマを設定してもらいました。テーマはサブカルチャーも含めて選んでもらっています。

私は、演習では自由な雰囲気を進めていきたいんです。学生と教員という階級差をなくしたい。同時に、とりあげる対象についても、自由に選んでもらいたい。それを示すために、最初に私の方からいろいろな例を示して、みんなの参考にしてもらいました。最初が肝心ですからね(笑)

発表は、回を重ねるごとにグレードアップしています。前回の発表を参考に、自分たちの発表に反映させているんです。グループで集まっている試行錯誤しているようで、その過程が学生にとってはいいみたいですね。

学生の皆さんへ

メディアリテラシーを身につけるためのジェンダー的視点をぜひ持ってもらいたいですね。

ジェンダーの視点はメディアリテラシーを身につけるうえで、とても大切なモノです。自分が受け取ったものには、普段何気なく見ていると見逃してしまう、別のものが存在する、ということを考えられるようになるためにも、是非身につけてください。

授業 (潜るポ?)

一つのグループは5人程度で編成され、一回の授業で1グループの発表・議論をする形で行われます。

この日は唯一の理系学生を含むグループの発表でした。5人それぞれがテーマに基づき、異なる作品をジェンダー的視点で分析した結果を、パワーポイントを使用して発表していきます。個々の育った環境で違いの出やすいジェンダー的な観点があり、なかなか見ごたえがあります。

このグループの特筆すべきは、最後に全員で考えた「ジェンダーフリーのシンデレラストory」なるものを発表したことでしょうか。大いに笑わせていただきました、が、深く考えさせられました。

自発的に疑問を持ったことを調べ、考え、発表する。そして、さらに踏み込む。そんな自由な雰囲気に包まれた、楽しい授業でした。

取材報告/写真:教育企画チーム

受講生の声

「リベラルアーツをもっと履修しやすくしてほしい。興味はあるのに、時間割上無理で諦めるのが残念」(生活科学部)

「せっかく総合大学であり、多様な学部、学科のあるお茶大に入学できたから、専門以外の方でも学びたいと思っているが、実際は専攻との兼ね合いや知識的な問題から受講しにくい。その分、LAはコア科目であり、文理融合ということでもとりやすくてよい。どの分野においても、関係のないような分野の知識や技術が役立つこともあるので、LA科目をきっかけにできたらと思っている」(文教育学部)

「どんどん科目を増やしていいと思う」(生活科学部)

「よいと思っていたが、実際授業を組んでみると、興味のある文系科目しかとっていないくて、うまく利用できなかった」(文教育学部)

「理系でも文系科目の講座(演習)に参加できて、すごく面白かった。新井先生の講座を受講できて本当によかった。また受講したい」(生活科学部)

「もっと理系がわかりやすいような文系科目を作ってほしい」(理学部)

「文系・理系の科目をあまり気構えずに受講できるのがよかった」(生活科学部)

「今までとは違った視点から学ぶことができてよかった。学部を超えて科目を選択するのに抵抗感があったが、文理融合リベラルアーツによって、それがしやすくなると思う」(文教育学部)

「学部別、学科別に設定されている科目(ex.「国際栄養学」「精神医学」)もLA科目としてあったらうれしい」(生活科学部)

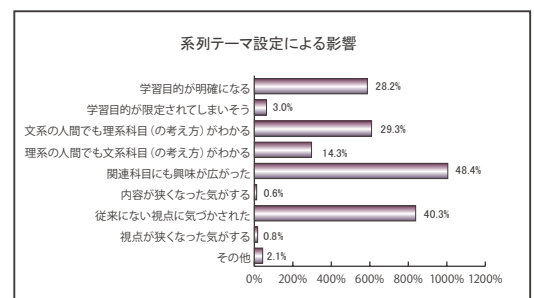
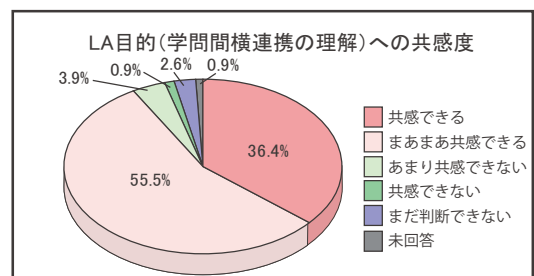
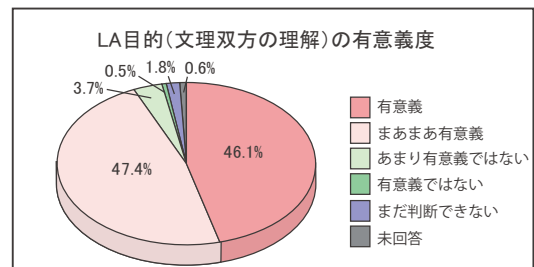
「隔年なので講義が受けられないことがあったりと残念」(理学部)

「学習の幅が広がるのでとても楽しい」(生活科学部)

「テーマに沿って学ぶのはよいがあるテーマを極めるというよりは様々なテーマの科目をとったのであるテーマについては極められていない印象です。その代わり普段学ばないテーマについて学ぶことができたと思います」(文教育学部)

「様々な分野の授業に参加できるので、いいと思う」(生活科学部)

平成 21 年度受講生アンケートから



女子大生の袴は、明治の初め
お茶の水女子大学の前身、東京女子師範学校のころに起源があり、
大正時代にブームになりました。
いつの時代でも、ハイカラさんは時代の先端を走っていました。



21世紀のハイカラさんは、あなたです。

履修方法

- ・文理融合リベラルアーツ科目群は、コア科目のなかの新しいグループとして設定され、コア科目の単位として認定されます。
- ・各系列の授業科目には、「講義」と「演習・実習・実験」の2種類があり、双方を組み合わせ、知識と実践力を高めます。「講義」は隔年で、「演習・実習・実験」は毎年同じ科目が開講されます。
- ・各系列の科目のうち、任意の5科目(10単位)以上を履修した場合に、申請に基づき、当該系列の履修証明書を授与します。
- ・19年度までの基礎講義・基礎ゼミのうち、テーマに沿って学習するものはこの文理融合リベラルアーツ科目群に移行しました。(大学での勉学や社会生活に必要な基本を学ぶ科目は、「基礎講義」として継続します)
- ・20～22年度生は、新設した文理融合リベラルアーツの科目名で履修します(系列名+科目番号+科目名)。
例 生命と環境3 多様性生物学
- ・19年度以前入学生は、新設科目については文理融合リベラルアーツ科目名で、移行科目については、旧基礎講義の科目名で履修登録します。なお、19年度以前に「基礎講義」としてすでに履修した科目は、当該科目名で再履修することはできません。
例「生命と環境3 多様性生物学」は、「現代生物学」(基礎講義)で履修登録する。移行科目については、『授業時間割』冊子の科目対照表を参照。
- ・演習・実習・実験科目については、履修者数に制限がありますので、初回ガイダンスのあとに履修抽選を行います。抽選では、1年生の希望者を優先します。

詳細は「授業時間割」冊子を参照

お問い合わせ

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 お茶の水女子大学

21世紀型文理融合 リベラルアーツ総合案内

電話番号：03-5978-5139

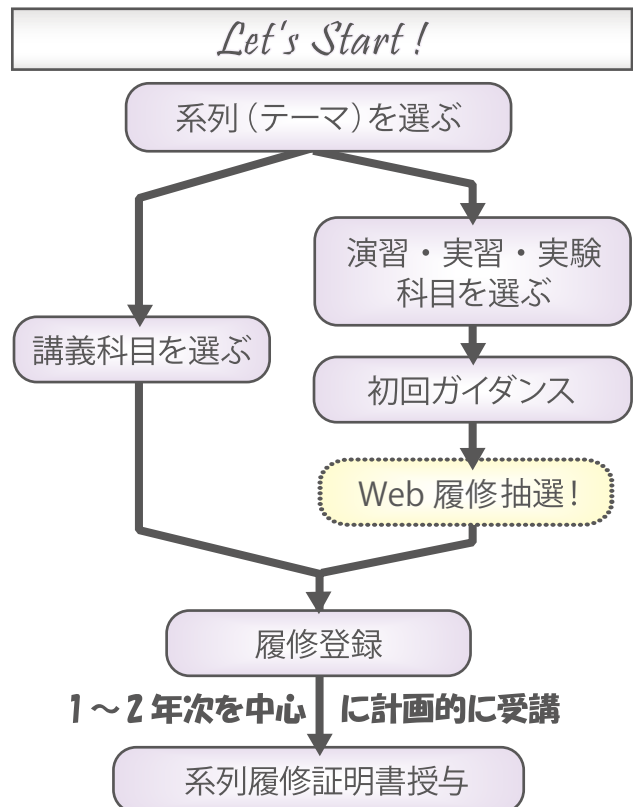
E-mail：kyouiku.kikaku@cc.ocha.ac.jp

履修に関して

電話番号：03-5978-5141

E-mail：kyomu@cc.ocha.ac.jp

21世紀型文理融合リベラルアーツ HP <http://www.ocha.ac.jp/la/>



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

Illustrations (系列テーマ、ハイカラさん) by 横山ふさ子

Photograph by KAORI